

【新しい学びプロジェクト】ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名： 有田川町立鳥屋城小学校

授業者： 川口 勝寛

教材作成者： 川口 勝寛

授業日時	2012年12月12日	教科名	社会科
学年	小学校5年生	児童・生徒数	30名
単元(題材)	国土の環境を守る 自然を守る運動	本時/全時数	15/18

授業のねらい
森林を守る取り組みについて、3つの立場（森林の手入れ・林業の後継者問題・国産材と輸入材）からとらえることができる
授業の柱となる課題（ジグソー活動の課題）
木を使うことが、どうして森林を守ることになるのか
課題に対して出してほしい答え（課題について子どもたちに語ってほしいストーリー）
安い輸入材ではなく国産材を使うことが、林業で働く人々の仕事を増やすことになる。林業が盛んになれば、あれた森林にはならず、森林を守ることへとつながっていく。
各エキスパート（答えを出すための部品）
<各エキスパートの資料内容・課題・つかんでほしいキーワードなどを書いてください>
A 森林の手入れ 手入れをせずに放っておかれた森林は、すぐにあれてしまう。 →人工林は、人が手入れをすればあれることがなく、よい木材をつくりだすことができる
B 林業の後継者問題 林業で働く人達の問題として、高齢化が進み、若い就業者が少ない →若い後継者が増えれば、林業は盛んにおこなうことができる
C 国産材と輸入材 木造の建物減少し、木を使う場合でも国産材ではなく安い外国産が使われる。 →国産材を使うことで、林業で働く人の仕事を増やす。
ジグソー活動でわかったことを踏まえて取り組ませたい発展的な課題（なしでも可）
グループ編成 ○エキスパート活動・・・3人（4人）×3グループ 3種類 ○ジグソー活動・・・3人×10グループ

## 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5	1、 前時の復習を行う ・木を大切にする →たくさん切らない、植樹	○本時のめあてへの意識付けをさせる ○教科書やノート、資料集を使い、確認をさせる
5	2、 めあての確認（問い）	
『木を使うことがどうして森林を守ることになるのか』		
10	3、 エキスパート活動 各グループに配られた資料を読み込み、ジグソー活動の準備をする。	○資料を理解する時間を十分にとる ○必要な事項に線を引かせて情報を自分なりに整理させる ○しるしはめあてにそった部分であるかどうかを問いかけ、助言する ○ストップウォッチによる時間計測を行い、終了は教師がかけることを伝える
10	4、 ジグソー活動 ジグソー活動のグループで集合し、エキスパートで精選した情報を説明し、本時の課題に対する解答とその理由を考える	○資料を用いながら説明してもよいことを伝える。 ○記述した言葉をそのまま発表するだけでなく、相手が聞き取りやすい量にするよう促す ○クロストークに向けて、班のストーリーを完成させるため話し合うように指示する
10	5、 クロストーク活動 各班で出た解答を発表し合い、意見をまとめる	○できる限り多くのグループに発表をさせると共に、他のグループの児童は同じ意見があれば賛成など意思表示をさせる。
5	6、 まとめのストーリーを考える	○発表された意見を踏まえ、本時のまとめのストーリーを考え、記述させる

### 備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

拳手発言は、特定の児童に偏る傾向がある。友達の発言に対して、納得や感嘆の声があるなど反応が良い。学力面などを踏まえ、エキスパートやジグソー活動のグループ編成を行った。

協調学習を行う社会の授業では、「話し合いながらできる授業で楽しい」「新しい考え方を見つけることができる」などの児童の声が聞け、積極的な授業参加姿勢が見られる。